

## 初日を明日に控えた今日、 初日の延期を伝える

**3月10日(火)** 「自粛要請延長」を受け、緊急会議となる。ポイントはこの状況で初日を開幕する

のか、開幕した場合のさまざまなリスクについて。公演実施の可否を決めるための選択基準がなかなか定まらない。感染拡大防止については既に来場者へのマスク着用をお願いや、入り口でのサーモ

グラフィータ体温測定、そして体調の悪い方やサーモグラフィが反応した方のための看護師の常駐、手指の除菌液などの配置が進められていた。パン

フレット以外のグッズは「密」を避けるためにオンライン販売のみとすることも決定。「安全」と「安心」について様々な角度から協議が続く。そして

危惧したのは風評。舞台に立つのは俳優。彼らが公演実施を決めるわけではないのに、彼らとその風評被害を受けてはいけない。外部からの質問に

ついて、あらゆる角度から「Q&A」を考えてみようという事になった。想定される質問に我々が

答えられなかったら公演実施には踏み切れない。

**3月11日(水)** 10時に会議が始まった。2001

年3月11日の『国民の映画』の体験が蘇った。あの

時思ったことは、未曾有の状況ですべての選択はすべてが正しいということ。その中でいかに「よ

き選択」をするか。お客様のこと、キャストのこと、スタッフのこと、そして我々のこと。議論を重ねた結果、我々の選択は初日開幕。ただし、現在販売

しているチケットは売り止めにする。不安で

劇場にお越しにならない方へのチケット払い戻しの対応。13時から始まる舞台稽古の前にキャスト・スタッフへ、その具体策とともに明後日の開

幕を伝えた。ただし、時時刻々変化していくこの状況に対応いただきたいことを付け加えて。

**3月12日(木)** 未明に入った、WHO(世界保健

機構)の「パンデミック宣言」とブロードウェイで感

染者が出たことで完全に打ちのめされた。再び早朝から召集となり、会議。海の向こうの劇場ではあるが、劇場スタッフに感染者が出たことは大打

撃だった。開幕を宣言した翌日に、そして初日を明日に控えた今日、最後の舞台稽古に入ろうと

しているキャスト・スタッフへ初日の延期を伝える。そして新たな初日は20日を目指すこと。皆のやる気を継続させなくては。

**3月13日(金)** 20日に初日を開けるために、プロ

ダクションを完成させる必要がある。当初通りの開演時間に関係者のみでのプレビューをやること

になった。客席には関係者とPARCOの社員。我々だけの「初日」の幕が開いた。このカーテンコールは一生忘れられない。

**3月20日(金)** 『ピサロ』初日。開場前には劇場

スタッフが客席の椅子の手すりや場内を消毒する。今日は春分の日。チケットも完売しているはずの客席は空席が目立つ。非常に複雑な気持ち。

「密」にならない状態としてはこれがベスト。しかし、本当は満席。俳優たちだって満員の観客の前

で演じたいはずだ。満席ではない客席を眺めてほっとする自分と悲しい自分が行ったり来たり。やっつと、やっつと、初日が開いた。

**3月23日(月)** 休演した8ステージ分を補うための追加公演を発表。

**3月25日(水)** 志村けんさんが新型コロナウイルスに感染というニュースが入る。東京都の週末外出

自粛要請に伴い、28日と29日の休演を決めた。

**3月27日(金)** お客様のモードが変わった。必死に劇場にきている感じ。ここにいることに罪悪感すら持っているお客様がいるような気がしてきた。舞台上の俳優もそんなエネルギーは絶対に伝わっている。終演後、謙さんの楽屋へ。「ちょっとフェーズが変わってきたな」と。

**3月28日(土)** 「渋谷PARCO」も休館。しかし、休演を知らずに劇場にお越しになるお客様がいたら申し訳ない。昼公演の開場時間に合わせ、渋谷PARCOの入り口に立つ。誰一人知らずに

来るお客様はいなかった。

**3月30日(月)** 客席は空席だらけ。週末を経て、

皆が確実に自粛モードに入った。続けられるのだろうか。

**3月31日(火)** 休演日。公演を続行すべきかどうか、再度検討するための会議。4月13日までの

休演を決めた。

しかし、4月7日の「緊急事態宣言」を受け、『ピサロ』の幕は二度と上がることがなかった。